

参 考

ばく露レベルを把握する手法は、入手できる情報によっていくつかありますが、ここでは、労働者に対する個人ばく露濃度の測定を実施している場合についてのリスクの見積り方法を紹介します。

（1）許容濃度^{※1}等が存在する場合

ばく露レベルと、許容濃度等と比較し、リスクを見積もります。

ア 許容濃度等 < ばく露レベル

直ちに措置を講じなければならない高いリスクがある

イ 許容濃度等 > ばく露レベル

リスクは小さい

（2）許容濃度等が存在しない場合

ばく露レベルと、無毒性量（NOAEL）^{※2}等と比較し、リスクを見積もります。

ア 無毒性量等 / ばく露レベル < 1

直ちに措置を講じなければならない高いリスクがある

イ $1 \leq$ 無毒性量等 / ばく露レベル ≤ 5

中程度のリスクがある

ウ $5 <$ 無毒性量等 / ばく露レベル

リスクは小さい

※1 許容濃度とは、労働現場で労働者が1日（8時間）ばく露されても、濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪影響がみられないと判断される濃度で、日本産業衛生学会が勧告値を発表しています。

※2 無毒性量（NOAEL : *No Observed Adverse Effect Level*）とは、毒性試験において有害な影響が認められなかった最高のばく露量のことをいいます。